

Title	学位授与者氏名及び論文題目
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学大学院社会学研究科
Publication year	1994
Jtitle	慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要：社会学心理学教育学 (Studies in sociology, psychology and education). No.40 (1994.)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	学事報告
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN0006957X-00000040-0050

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学 事 報 告

学位授与者氏名及び論文題目

修 士 (平成6年2月)

社会学修士 (社会学専攻のもの)

- 第 742 号 落合 睦臣 新宗教研究の視角から見た
チャネリング ―バンシャー
ルを事例として―
- 第 743 号 猿渡 土貴 国東半島・岩戸寺の修正鬼
会における「伝統」と変化
―祭祀集団の変遷を中心
に―
- 第 744 号 末松 渉 ボランティア電話相談員に
おける職務満足と組織コミ
ットメント ―組織心理学
の視点から―
- 第 745 号 近藤 雅子 精神科診療所における受診
行動の研究
- 第 746 号 高山 緑 老年期への移行過程におけ
る危機と適応 ―生涯発達
心理学的視点から―
- 第 747 号 井沢功一郎 MCMI-II (ミロン臨床多軸
目録-II) 日本の臨床領域
における実用化のための基
礎的研究
- 第 748 号 伊藤未知代 癌患者の夫と死別した妻の
悲哀の作業
- 第 749 号 稲垣 誠 社会変動と企業者活動
―日本の初期産業化におけ
る三菱の発展を通じて―
- 第 750 号 梅田 康子 救助ニーズからみた中国帰
国者の異文化適応過程の研
究
- 第 751 号 勝木 一郎 異類的コミュニケーション
ン・ネットワークの特性
- 第 752 号 菊地 泰博 音楽における身体性の研究
―メディアの変容が及ぼす
影響を中心として―
- 第 753 号 金官 圭 韓国における日本衛星放送
の視聴と影響に関する研究
―その利用と満足, 認知,
態度及び行動的意図に及ぼ
す影響を中心として―

- 第 754 号 坂元 仁美 「ヘンリー・ミラー研究-共
感的理解による人物像把握
の試み」
- 第 755 号 高梨 志穂 異文化間における相互行為
の成立とギャップ
- 第 756 号 中野恵利子 アノレキシア・ネルヴォー
ザ患者の両親
- 第 757 号 延島 明恵 日系ブラジル人についての
一考察 ―人手不足社会日
本へ還流してきた日系ブラ
ジル人の意識調査―
- 第 758 号 宮下 克也 現代沖縄社会における土族
門中 ―金武御殿巡拝を通
じて―
- 第 759 号 矢田部圭介 「合理的行為」の解体と再
編 ―転回点としての A.
シュッツ―
- 第 760 号 山田 慎也 葬制の変化に関する一考察
―和歌山県東牟婁郡古座町
の事例を通して―
- 第 761 号 楊 淑君 異文化間コミュニケーション
における「不快」の原因
帰属 ―日本人と滞日台湾
人の帰属過程を中心―
- 第 762 号 劉 小慧 「被害者」認知に及ぼすテ
レビの影響 ―マス・コミ
ュニケーション効果研究に
おける「培養理論」のアプ
ローチから―

心理学修士 (心理学専攻のもの)

- 第 763 号 梅田 聡 行為の記憶と年齢差 ―日
常的アプローチと実験室的
アプローチ―
- 第 764 号 尾原 裕美 記憶における時間的体制化
の発達と幼児期記憶のもつ
意味
- 第 765 号 小松 英海 水平往復運動によるステレ
オカイネティック現象にお
ける軸の効果

教育学修士 (教育学専攻のもの)

- 第 766 号 佐藤 恵子 「老人性痴呆の神経心理学的診断に関する考察」
- 第 767 号 加藤 裕子 降雨と熱力学に関することばの概念
- 第 768 号 難波 博子 学校心理学への期待 ―学校教育への新しいアプローチとして―
- 第 769 号 前田 洋士 算数の問題解決の多様性: 探索的分析によるモデル化の試み ―比例の問題を題材として―

修士 (平成7年2月)

社会学修士 (社会学専攻のもの)

- 第 770 号 尾形 秀夫 近代におけるアイヌ民族の研究 ―特に明治期共有財産制度の確立について―
- 第 771 号 久保田滋子 チベット難民のアイデンティティ形成
- 第 772 号 佐瀬真希子 日常生活場面における母子相互作用 ―エスノメソドロジカルな視点から―
- 第 773 号 浅井 直樹 来談者中心療法と日本人の心性 ―カウンセラーの非人称性 (impersonality) をめぐって―
- 第 774 号 浅野さわ子 景観に刻まれた社会組織 ―神奈川県藤沢市遠藤の空間構成―
- 第 775 号 石川 麻紀 関係としての〈病い〉と〈癒し〉 ―〈知〉と〈非-知〉をめぐる考察―
- 第 776 号 藤井 英博 「過疎地域振興組織」の事例研究 ―組織間関係論の視角から―
- 第 777 号 山田 良一 「自立生活」を営む全身性身体障害者の心的世界
- 第 778 号 中村ミッシェル 良子 日本企業で働くアメリカ人社員の適応性、満足度及び文化的アイデンティティ
- 第 779 号 梅屋 潔 新潟県佐渡島における呪詛

―黒森・白田地区の事例から―

- 第 780 号 大澤あかね コンパニオン・アニマルの役割 ―ペットとの関わりとその心理的影響―
- 第 781 号 金関 いな 日本人の対外国人態度
- 第 782 号 屈 友軍 華僑から華人へ ―多文化主義下の華僑・華人社会についての考察―
- 第 783 号 倉上 典子 多元的価値社会における「労働観」に関する実証的研究
- 第 784 号 後藤 健介 韓国居留民 その社会と意識
- 第 785 号 佐藤 環 老人介護のジェンダー分析 ―家族介護の事例調査から―
- 第 786 号 芹沢 一也 「癲狂」から「精神病」へ ―明治・大正期における狂気の歴史―
- 第 787 号 仙田 幸子 大卒者の初期キャリア発達に関する研究
- 第 788 号 田中 正隆 祭祀形態の持続と変化に関する一考察 ―吐叻喇列島・悪石島の事例を通して―
- 第 789 号 趙 珠恩 「日本のテレビニュースにおける利用と満足」
- 第 790 号 中野 紀和 都市祭礼から見た地域社会の変化 ―小倉祇園太鼓を事例として―
- 第 791 号 平川 智章 職位分析に基づく政治体系のモデル化 ―ナイル系シルック (Shilluk) の歴史的資料を中心にして―
- 第 792 号 武藤 香織 先端医療の政策科学的研究 ―医療専門職集団を中心に―
- 第 793 号 湯川 慶子 異文化理解教育の効果 ―知識学習と体験学習の比較―

心理学修士 (心理学専攻のもの)

- 第 794 号 呉 如恵 言語発達遅滞児における模

	倣による多音節タクトの習得	第 798 号	坂下 浩一	生まれる統一を求めて— 統合教育が児童の態度に及ぼす影響：PM リーダーシップ理論からのアプローチ
第 795 号	水野 圭郎			
	系列反応時間課題におけるRSI 効果—潜在的学習の行動分析学的研究—	第 799 号	須々木真紀子	不登校の子どもの保健室登校に関する調査研究
教育学修士（教育学専攻のもの）		第 800 号	福田 哲也	行動記憶と痴呆：認知・発達心理学的理論化と検査の開発
第 796 号	杉下 文子			
	アンリ・ワロンの教育思想—年代記的研究の試み—	第 801 号	三神 淳子	F. W. パーカーの子ども観に関する一考察
第 797 号	遠藤眞理子			
	多文化教育における文化的リテラシー—多様性から			

博士（平成5年度）

社会学博士

乙 第 2663 号 和 崎 春 日

大文字祭礼の都市人類学的研究
—左大文字を中心として—

〔論文審査担当者〕

主査 慶應義塾大学文学部教授 大学院社会学研究科
委員 文学博士 宮家 準
副査 慶應義塾大学法学部教授 大学院社会学研究科
委員 社会学博士 川合 隆男
副査 慶應義塾大学名誉教授 社会学博士
十時 殿周

〔学力確認担当者〕

慶應義塾大学法学部教授 大学院社会学研究科委員
社会学博士 川合 隆男

内容の要旨

本論は、文化人類学がこれまで得意とし、考察を蓄積してきた単層社会や未開社会の研究ではなく、国家などにも複合社会（complex society）と規定されている都市を対象とした文化人類学的研究を拓こうとするものである。その際、都市人類学は、人類学と名のる以上、文化人類学の視点から都市を捉えようとする。筆者が都市人類学を標榜する上で採る方法は、都市民衆の生活や習俗や価値意識や心意から都市社会を分析するとこ

ろにある。本論は、都市に生きる民衆の習慣や民俗、そうした習俗のぶつかり合い、緊張、妥協、協力などの社会関係、さらには、それを支える都市生活者の生き方、工夫、生活の知恵などを析出したものである。

その意味から、京都・大文字五山送り火の都市の祭りという、都市民衆の社会生活と心意・アイデンティティの両方が反映する対象を取り上げたことに、方法論上の意義と適切さがあるだろう。したがって、本論で示した筆者の都市人類学というものは、部分から全体を見据え、生活領域や価値意識から都市を語り、下の生活実践から上の都市構造を見上げて、都市性を考察したものである。

本論では、大きく3部に分けて、都市祭礼・大文字五山送り火を、その一つの左大文字に焦点をあてて、考察した。第1部では主に、大文字祭礼の現在の共時的システムを考察した。第2部では、祭礼をめぐる通時的・歴史的な社会変動を分析した。第3部では、大文字をめぐる共時・通時分析を受けて、筆者の都市人類学理論を整理して提示し、この理論の枠組にそって、共同体論、都市民族論、アソシエーション論、集団境界論、儀礼構造論、都市祭礼の研究調査方法へと、展開したものである。

まず、序章において、京都・大文字五山送り火祭礼の歴史と由緒を追跡した。江戸初期・中期頃からの盆儀礼であることは判明するが、寺院・神社・宮中の文書から、大文字に関わる記載が出てこない。つまり、大文字はそれだけ民衆主体の町衆的エネルギーの集積から成っていたこと、そして、市民的な自由な興趣の競い合いへと展開していたことを指摘した。こうして、起源論的に